

## 青少年教育指導者等の養成及び資質向上事業

### 「第43期はなやまボランティアスクール」

#### 1. 趣旨

全国28施設の国立青少年教育施設でボランティア活動が行える「法人ボランティア養成カリキュラム」において、ボランティア活動に必要な理論と技術についての実践的な研修を行い、ボランティア活動に積極的に取り組む意欲を高める。

#### 2. 事業の概要

(1) 期日 令和4年5月21日(土)～5月22日(日)【1泊2日】

(2) 参加者

①参加対象 高校生以上のボランティア活動を志す方(高校生・学生・一般成人) 40名程度

②参加人数 91名

		10代	20代	30代
男性	21名	7名	14名	0名
女性	70名	49名	20名	1名

#### 【参加者の所属先】

- ・岩ヶ崎高等学校・古川黎明高等学校・利府高等学校・古川高等学校・宮城大学・宮城学院女子大学
- ・宮城教育大学・仙台幼児保育専門学校・仙台白百合女子大学・東北学院大学・東北福祉大学
- ・オーエンス泉岳自然ふれあい館・つちのこ保育園

#### 3. 企画運営のポイント

- 先輩ボランティアをグループリーダーとして配置することで、身近なメンターの役割を期待した。
- 講義の中にもグループワークを設け、参加者が主体的に関われるようにした。
- 安全管理の演習では、KYTを実施することで危機管理への意識を高めた。また熱中症など、いくつかの症例を想定したケーススタディを実施し、実際にボランティアの立場でどのように対応するかについて取り上げた。

#### 4. 日程 「法人ボランティア養成カリキュラム」科目名で記載

	5月21日(土)	5月22日(日)
午前	<開講式> 9:30 <講義Ⅰ> 9:50～10:50 「青少年教育施設の現状と運営」 〔講師〕 国立花山青少年自然の家 所長  <説明Ⅰ> 11:00～12:00 「青少年教育施設におけるボランティア活動」 〔担当〕 国立花山青少年自然の家 職員 先輩ボランティア	<講義・演習Ⅱ> 9:30～12:30 「安全管理」 〔担当〕 国立花山青少年自然の家 職員
午後	<講義Ⅱ> 13:00～14:30 「青少年教育」 〔担当〕 国立花山青少年自然の家 職員  <講義・演習Ⅰ> 15:00～19:00 「ボランティア活動の技術」 花山プログラム体験：野外炊事 〔担当〕 国立花山青少年自然の家 職員	<説明Ⅱ> 13:30～15:00 「登録制度について」 〔担当〕 国立花山青少年自然の家 職員 <閉講式> 15:00 「修了証授与」
夜	<講義Ⅲ> 19:30～21:00 「ボランティア活動の意義」 〔担当〕 国立花山青少年自然の家 職員 先輩ボランティア	

## 5. 主な活動内容

### ① 講義Ⅰ「青少年教育施設の現状と運営」



### ② 講義・演習Ⅱ 「ボランティア活動の技術」



### ③ 講義Ⅲ「ボランティア活動の意義」



### ④ 講義・演習Ⅱ 「安全管理」



## 6. 成果と課題

### (1) 参加者アンケート結果

満足：89% やや満足：11% やや不満：0% 不満：0%

### (2) 参加者の声

- ・困った時はすぐに対応してくれて、みんなの緊張をほぐすような声かけが多くて良かった。
- ・ボランティアが自分自身も成長できる場所だと知り、今までは口先だけで「積極的に参加したい」だったけれど、これからは実際に行動に移していこうと思った。
- ・ボランティアの魅力が深まりました。
- ・緊急事態の対応について、対応の仕方などを初めて知る内容があったので、本当にその事態に遭遇する前に学べてよかった。

### (3) 成果

- ・所属先や年齢を混在させたグループ編成を行い、活動開始前にアイスブレイクを取り入れることで、活発なグループワークを行うことができた。
- ・大学への訪問広報の効果もあり、多くの学校から参加者を募ることができた。

### (4) 課題

- ・募集人数を大幅に超えて申し込みがあったため、グループリーダーを担当するボランティアの確保に苦慮した。参加者が決定した段階でスタッフの増員を検討する必要がある。
- ・企画当初は栗原市消防署に安全管理の講義・演習を依頼していたが、宮城県内の新型コロナウイルス感染者数の増加に伴い派遣を取りやめる対応となった。そこで急遽内容を変更し職員で対応した。依頼先の派遣中止基準等を確認し、プログラム変更に対応できるように調整する。

担当：事業推進係 高橋 諒